

# いつも一緒 富山のペットたち

寒さが厳しいこの時期、犬が震えているのを目にすることがよくあると思います。動物病院でも「うちの犬がブルブル震えているんだけど、どうしてですか」と尋ねられることがしばしばあります。



荒井 靖子

冬場は寒さのために震えている場合が多いようです。これは生理的なことであり、どんな犬にも見られます。でも、犬が震えるのは寒い時だけでありません。病院の診察台上に載せられ、恐怖と緊張のあまり震える犬もいます。風邪をひき、熱のために悪寒で震えることもあれば、痛みで体が震えてしまうこともあります。また、さまざまな病気の一症状として震えが見られることもあるのです。

「震え」は、「自分が意識しないで起こる筋肉の振動」と言えます。この振動は、筋肉の収縮と弛緩が繰り返されて起こり、原因はさまざまです。今回は「生理的な震え」と「病的な震え」に分けてお話ししましょう。

環境に対応  
生理的な震えは、①寒冷刺激によるもの②発熱によるもの③

## 犬の震え

あらい犬猫病院長  
(富山市婦中町下豊田)



診察台の上で、怖くて震えている雌の雑種犬。このほか、寒さや病気などで震えは起こる

# 寒さや病気が原因

恐怖や緊張によるもの「に大きく分類されます。体が正常な状態であっても、周りの環境の変化に対応し、体の恒常性を保つために起こります。そのメカニズムには、ある種のホルモンが関与することがあります。体がいつもより温かく感じられ、元気がなく食欲もあま

主にびびったり寄り添ったり、狭い所に隠れたりして震えることもあります。これは「恐れ」による震えです。このような経験や学習を重ねた場合、実際には雷の音が聞こえていないのに、激しい雨音を聞いただけで、雷の音が聞こえているかのように震えることが

りない状態で震えているときは、熱が出ているのかもしれない。動物病院を受診しましょう。雷の音を怖がって震える犬もたくさんいます。中には、飼いが

あります。そんなときは、恐れによる震えではなく、「雷恐怖症」という問題行動だと言えます。問題行動かどうかの見極めは簡単ではなく、専門家の判断が必要です。

原因がはっきりしないものもあります。人と同様、犬も加齢とともに震えが起こることがたびたびあり、特に後ろ足がブルと震えます。これは「老齢性振戦」と呼ばれています。みなさんの飼っている犬が震えているとします。どんな状況でどんな表情をしていますか。震えの他に何か症状はありますか。

「いつも一緒 富山のペットたち」は、毎月第1木曜日に掲載します。

2013(平成25)年2月7日  
北日本新聞